

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピリなの花		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 12月 15日		～ 2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な活動を提供している。	「運動」「遊戯」「工作」「音楽」「調理」「散歩」「行事」「園芸」「菜園」など、多様な活動を毎日取り入れて提供している。また、その日に通う児童の療育目的に合わせて場面を設定して支援を行っている。	地域に出ていき、社会資源を利用した活動を積極的に取り入れていきたい。
2	保護者様とのやりとりや交流の機会を設けている。	事業所への送り迎えを保護者様をお願いしているため、送迎に関わる保護者様の出入りがあり、できるだけこまめに児童の様子を伝えるよう心掛けている。 なの花Café(保護者懇談会)やオープンハピリ(保護者参観)などを企画して、保護者様と関わる機会をつくるようにしている。	集団の場や意見交換を行うような場面が苦手な保護者様や、仕事の都合上、当事業所に足を運びづらい保護者様にとって参加しやすいイベントを考え、取り入れていきたい。
3	様々な資格をもった支援者がいる。	保育士や作業療法士など、様々な資格をもった支援者が、様々な角度から児童をみて、全体像を捉えるように努めている。	外部研修に参加したり、文献を読んだりして、新しい知見や療育の考え方を取り入れ、知識や技術をアップデートし続けていきたい。また、新たに学んだことは、事業所内の研修の機会に支援者同士で共有したい。必要であれば、保護者様に向けても発信していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設の構造的な療育の限界や危険性がある。	本来、療育を行うための建物ではなかったため、療育目的を果たしていく限界を感じている。2階の指導訓練室は、出入り口からすぐに階段が始まり、危険を感じている。児童がとび出して転落につながらないよう、ドアのサムターンを防犯式に交換した。	ドアのサムターンを交換したにも関わらず、児童が近くに設置された棚を登ってサムターンを操作して開錠してしまうことがあったため、棚の位置調整を検討したい。
2	立地的な災害リスクがある。	南側には川があり、洪水浸水想定区域に施設が隣接している。北側には山があり、土砂災害警戒区域に含まれている。	定期的にマニュアルを見直し、いざという時、適切に判断して行動できるように備えたい。また、予測される災害リスクを保護者連絡で共有し、全体で危機感を持ちながら児童の安全確保に努めたい。いつでもな時でも保護者様と連絡がとりあえる仕組みを構築しておきたい。緊急連絡先などに変更がないか、年度替わりの機会に見直したい。
3	児童クラブや地域の子どもたちと交流を持つ機会が少ない。	春休みに同法人の児童クラブと交流をもつ機会を設けたが、それぞれの都合が合わず、実現したのは1度きりだった。	合同の活動や交流の機会を早めに企画し、余裕をもって計画することができるようにしていきたい。目標は春休み、夏休み、冬休みにそれぞれ1回ずつ行いたい。企画する日も変更しながら、多くの児童にとって相互に交流を持つ機会としたい。